

ONCE UPON A TIME IN AMERICA

ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ

清川泰次が見た1950年代のアメリカ

7月29日^土 – 11月26日^日

以上二点 (ニューヨーク風景)

制作された絵画作品は勿論、当時の写真、手記などを織り交ぜ、清川泰次が如何にしてアメリカを見つめ、その影響を受け止めていったかを究明する展覧会です。そこに、我々が想像する以上の清新な“アメリカ”の肖像があり、そしてそこで苦闘を重ねた一人の日本人画家の肖像を重ね見て頂ければ幸いです。

清川泰次は、資生堂画廊での個展や読売アンデパンダン展などへの出品を経て、1954(昭和26)年6月から約3年の間、アメリカ合衆国はシカゴに単身で渡りました。彼はそれまで描いていた具象画に様々な疑問を抱いており、当時次々と海を渡って日本に流れ込んでくる最先端のアメリカ美術に触れ、またそれを習得すべく、数週間もかけて客船で海を渡り、大陸横断バスでシカゴを目指します。

シカゴに到着して間もなく、後援者が不幸にも急逝するなど、決してその創作活動は平坦な道のみではありませんでしたが、3年間の修練は清川の作風の抽象画への傾倒を決定的なものにしました。そこでの様々な人々との出会いを糧に、清川は自身の芸術に対する哲学を育んでいきます。それは意外なことに、当時のアメリカで一世を風靡していた抽象表現主義などではなく、日本的な「無」や「空」といった思想への傾倒でした。異国の地アメリカに渡った体験によって、清川はより日本固有の美意識や哲学へと心酔していったのです。

そして1963年に、清川は再び研鑽を積むためサン・フランシスコに渡ります。この渡米を転機に、清川が描く抽象画はより約やかな、簡にして要を得た白を基調とする作風へと展開していきます。こうして清川は、独自の作風を1970年代の「白の世界」のシリーズで会得するに至りました。

この傍らで彼は、学生時代からの長きに及んで趣味としていたカメラで、多くの現地での写真を残しています。これらは、彼がどのようにアメリカを“見て”いたかという貴重な資料写真であるだけでなく、戦後に比類なく隆盛を極めたアメリカを、日本人がどのように注視し、捉えたかという“肖像画”でもあると言えます。そこには、鈴生りの見物人で溢れかえる街角、休日を満喫する人々、静まり返る郊外といった、アメリカの光と陰がフィルムに見事に焼き付けられています。そして同時に、そのゆとりの感じられる落ち着いた構図や繊細な色遣いからは、彼の描く絵画との関係性も窺えるでしょう。

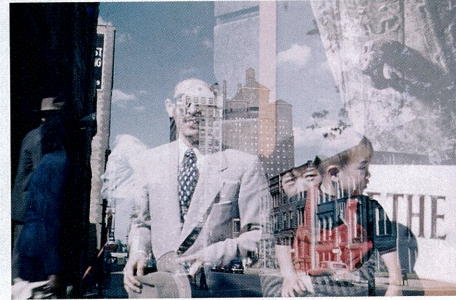
今回の展覧会では、1950年-60年代というその過渡期にかけて



《シカゴ風景》



《シカゴ風景》



《アメリカでの自画像》

以上全て1950年代 撮影:清川泰次

■ 宮本三郎記念美術館

平成18年度 第2期展

百花繚乱 宮本三郎の描いた花

2006年7月29日(土)～11月26日(日)

●お問い合わせ

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836
http://www.miyamotosaburo-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急目黒線〔奥沢〕駅 徒歩8分 / 東急大井町線〔九品仏〕駅 徒歩8分
東急大井町線・東横線〔自由が丘〕駅 徒歩7分

世田谷美術館分館
宮本三郎
記念美術館
Miyamoto Saburo Memorial Museum



■ 向井潤吉アトリエ館

平成18年度 第2期展

向井潤吉の素描

2006年7月29日(土)～11月26日(日)

●お問い合わせ

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581
http://www.mukaijunkichi-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急田園都市線〔駒沢大学〕駅 徒歩10分 / 東急世田谷線〔松陰神社前〕駅 徒歩17分
東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所〔駒沢中学校〕徒歩3分 / 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力〔駒沢三丁目〕徒歩3分
東急バス(渋11) 渋谷～田園調布〔駒沢大学駅前〕徒歩10分 / 東急バス(渋12) 渋谷～二子玉川〔駒沢大学駅前〕徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館



■ 清川泰次記念ギャラリー

平成18年度 第2期展

ONCE UPON A TIME IN AMERICA

ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ

清川泰次が見た1950年代のアメリカ

2006年7月29日(土)～11月26日(日)

●お問い合わせ

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
http://www.kiyokawataiji-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

小田急線〔成城学園前〕駅南口 徒歩3分

清川泰次
記念ギャラリー
Kiyokawa Memorial Gallery
Once on a Time in America

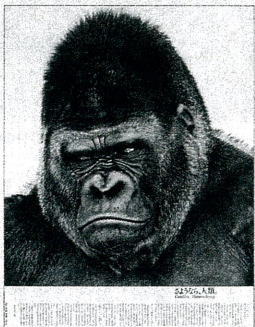


■ 各館共通

- 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(ただし7月17日・9月18日・10月9日は開館、7月18日・9月19日・10月10日は休館)
- 観覧料 一般200円(160円)、大生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)、
()内は20名以上の団体料金、小・中学生は土・日・祝日、および夏休み期間(7月21日～8月31日)は無料



世田谷美術館



▲ 細谷巖
(公共福祉広告「現代を見つめよう」新聞広告)
1971年 武蔵野美術大学資料図書館蔵

企画展 ▶▶▶

- 開催中～9月24日(日) クリエイターズ まだ見ぬ日常への案内者たち
デザインの領域で活動している長大作(建築家)、細谷巖(アートディレクター)、矢吹申彦(イラストレーター)の3人の制作活動の軌跡を辿ります。
- 10月7日(土)～12月10日(日) 開館20周年記念 ルソーの見た夢、ルソーに見る夢
当館20周年を記念する本展は、ルソーおよびルソーに続くフランスの素朴派、そして、ルソーに魅せられた近代日本の洋画家、日本画家、写真家、さらに現代美術家たちの作品をご紹介します。
- 11月5日(日)～12月24日(日) 空間に生きる-日本のパブリックアート展
本展は戦後公共空間に置かれた野外彫刻や彫刻庭園など、日本のパブリックアートの歴史を、写真パネル、ビデオ、模型などでご紹介する国内初の展覧会です。

収蔵品展 ▶▶▶

- 7月14日(金)～10月22日(日) イギリス的なもの
ベン・ニコルソン、ラウリー、ウォリス、クラッグ、ロング、ナッシュ、ホックニーといったイギリスの20世紀美術を出品し、「イギリス的なもの」とは何かを考察します。

20
anniversary
SETAGAYA
ART MUSEUM



▲ アンリ・ルソー《熱帯風景、オレンジの森の猿たち》1910年頃

●お問い合わせ

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)
http://www.setagayaartmuseum.or.jp

●最寄交通機関のご案内

東急田園都市線「用賀」駅徒歩17分、または美術館バス「美術館」徒歩3分
小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」徒歩10分

●開館時間

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

●休館日

毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)

●観覧料

収蔵品展は分館と同じ(企画展は内容により異なる)